

C-71 パーソナル・カラーの研究(第3報) パーソナル・カラーの恒常現象

東京家政学院短大 今井弥生

目的 一個人のパーソナル・カラーが成長に伴って、どのような傾向を示すかという問題を解明する目的で、数量的に青年前期から中期の女子のパーソナル・カラーを追跡し、発達段階的に規則性を見出し、集団のなかにおける個人の行動の仕方を実証しようと試みた。

方法 都内在住の東京家政学院中学生が、同高校を卒業するまでの225名(12~17才を対象とし、調査時期は1965~'72年の毎年11月に実施した。

試料は標準色票150色を用い、自計方式でパーソナル・カラーを1色選ばせた。

色彩の観察はJIS Z 8723に従った。色彩の分類はJIS Z 8721とJIS Z 8102に準じた。

結果 12才(中1)と17才(高3)との相関は0.69である。その間7.5B7/4のものは3Y9/7に大きく移動している。B, R, Yは恒常性が強い。

14才(中3)と15才(高1)との相関は0.89である。これはB, R, W, GY, G, BGに恒常が保たれている。

殆んどの場合、ある時点で他の色彩に移っても、知覚表象の上で補正されるために、パーソナル・カラーの恒常現象が認められる。